

子どもと大学生が共に学ぶ 「ぴったんこ隊」



NPO法人与よなか市民環境会議アジェンダ21
(豊中市立環境交流センター指定管理者)

1

ぴったんこ隊とは

- ▶ 全5～7回の子ども対象のESD連続講座
- ▶ 年2期、各期約20人
- ▶ 各回「食べ物」「水」「森林」などのテーマを取り上げ、室内やフィールドでの活動。それぞれのつながりが回を重ねる毎に、より理解できるプログラム
- ▶ 2つの世代の育成を目的

2

育成する2つの世代

- ▶ 子ども達（小学1～4年）
- ▶ 自分と地域、世界、自然のつながりを感じ、「考える力」「社会の中の多様な人々や考え方に気づく力」「多様な友達と協働で問題を解決する力」を伸ばす。
- ▶ 学生（大阪大学環境サークル）
- ▶ プログラム実践とスタッフのサポートで、各テーマを学び、子どもたちに「伝える力」「共に考える場を作る力」「見守り、育てる力」を得ます。



特徴：相互的な育成・それぞれへのサポート

3

実際のプログラム①（室内）

ドイツのゲームで生き物博士(2時間)

- 目的
- ▶ 遊びながら、生物を見る様々な視点に気づく
 - ▶ わからないことを友達と一緒に想像し、話合う



実際のプログラム①（室内）

▶ 動物クイズ



5

実際のプログラム①（室内）

▶ 豊中の生物のカードを作り、みんなで遊ぶ



6

実際のプログラム②（フィールド）

わっぱるの森できこり体験(7時間)

- 目的
- ▶ 森林の役割、現状を知る
 - ▶ 森林管理（木を切る）をし、森を感じる



7

実際のプログラム②（フィールド）

- ▶ 葉っぱ探偵団



8

実際のプログラム②（フィールド）

▶ 森で生き物探し



9

実際のプログラム②（フィールド）

▶ きこり体験



10

実際のプログラム③（室内）

水について知ろう(2時間×2日)

目的 ▶ 日常で利用する水に目を向け、水の大切さを知る



11

プログラムの成果

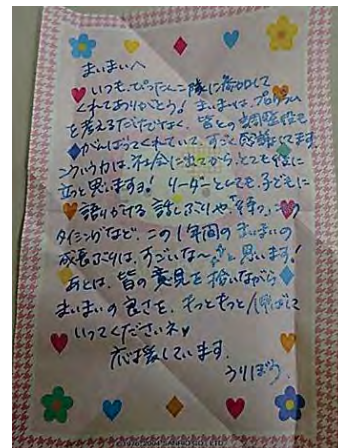
▶ 単発で学ぶのではなく、色々なテーマの中に森林を入れることで、自分たちの生活と森、森と様々なものがつながっていることに、気づけた



12

大切にしていること

- ▶ テーマに対して、善悪の価値判断を伝えないこと
- ▶ 保護者にも意味を伝えること
- ▶ 学び合いの精神（子どもからも学ぶ）
- ▶ それぞれの子ども、学生に寄り添うこと



13

長期的な成果

（子どもと学生の変化、専門家との協働）

- ▶ 子どもたちは、発言が積極的にできるようになり、ぴったんこ隊での学びを生活に取り入れる子も出てきた。
- ▶ 大学生が継続的に参加。関わりも1日ボランティアから、プログラム一部運営、プログラムの1日企画、安全管理や受付など全体運営へと深まり、積極的に学びとる姿勢になった。
- ▶ 大学生は、長期的な視点で子どもたちの成長を見守る発言が増えた。ケンカや走り回る子が出てきても、すぐにはとめずに様子を見たり、危ない時には、しっかり子どもの目を見て、話を聞かせることができるようになった。
- ▶ 様々な分野の専門家が賛同し、協働でプログラム作りを行うことで、多様なテーマを扱うことができるようになった。

14

今後の方向性

- ▶ 大学生のプログラム作りの精度を更に挙げ、子どもたちの意向もプログラムに反映できるような仕組みを取り入れること。
- ▶ あえて、子どもたちや大学生の生活の場を拠点とした森林E S Dを行っているので、日常の中での、森林の課題の解決にも積極的にアプローチすることで、人育てと課題の解決を同時に行っていきたい。

15

子どもと若者と環境のために...



共に成長できるESD「ぴったんこ隊」